



第11号 令和7年8月10日発行



社会福祉法人 和歌山つくし会

本部 和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の1

TEL : 073-488-7470

FAX : 073-478-1900

事務局 和歌山県岩出市中迫665

TEL : 0736-69-1772

FAX : 0736-69-5251

## 特集 『令和7年度 始動する!』

令和7年4月1日 和歌山つくし会 入職式



## 目次

### 1. 令和7年度 4月1日 入職式 ご挨拶 和歌山つくし会

谷本 美佐子 理事長  
森下 宜明 副理事長  
西上 邦雄 常務理事  
中谷 政紀 本部事務局長  
前田 典子 本部事務局 総務課長



### 2. 園長就任のご挨拶

広瀬幼保園 上垣内 康弘 園長  
つくし幼保園 佐伯 正季 園長

### 3. 新規入職・採用職員、昇任職員 抱負を語る！

### 4. 研修報告「近代ボバース概念 CBC 小児領域8週間講習会に参加して」

中森 麻美 つくし医療・福祉センター 言語聴覚士

### 5. つくし医療・福祉センター 第13回スペシャルコンサート

### 6. つくしっ子投稿「グローバル経済の行方と社会福祉法人の未来」

中谷 政紀 和歌山つくし会本部 事務局長

### 7. つくしっ子連載第8回 「イタリアで見つけた共生社会のヒント」

川野 琢也 つくし医療・福祉センター リハビリテーション課 課長

### 8. つくしっ子ニュース！

和歌山乳児院 病後児保育室「きらら」病児保育室へ

つくしの里こども園「おいもの苗植えに行きました！」

つくし医療・福祉センター 「読売TVの『BEAT時代の鼓動』に出演しました」  
「日本重心協議会で永年勤続表彰を受賞！」

### 9. つくしっ子のひとりごと

「メディアによって構築された「善」と「悪」

谷本 美佐子 社会福祉法人 和歌山つくし会 理事長

### 10. 役員退任のお報せ

監事 増尾 穰 先生

評議員 船津 由起子 先生 田林 芳子 先生

### 11. 編集後記



## 令和7年4月1日 和歌山つくし会 入職式

令和7年度は新規入職者15名、昇任・昇格職員26名、計41名の参加者を迎え、「つくしホール」で盛大に入職式が執り行われました。

### 「ご挨拶」

社会福祉法人 和歌山つくし会 理事長

谷 本 美佐子

皆様は本日「和歌山つくし会」の職員になられました。おめでとうございます。

和歌山つくし会の職員一同、皆様の入職を心より歓迎いたします。

和歌山つくし会には、次の6つの施設があります。和歌山乳児院、つくしの里こども園、広瀬幼保園、つくし幼保園、つくし医療福祉センター、そして里親支援センター「なでしこ」です。

和歌山つくし会は令和6年に創業70周年を迎えました。

70年前に、まだ戦後の世の中が不安定な時に、「こどもたちや障がいのある方々のためにつくしたい」という精神をもって創始者の初代理事長 谷本千鶴が最初の保育所事業を立ち上げました。その後、乳児院や重症心身障害児施設、幼保園など今日まで様々な事業を展開してまいりました。まだ法令の整備されていなかった時代から70年間、昭和、平成、そして令和と職員たちの手から手へと時代を超えて「つくす」という理念に基づいた福祉の心が受け継がれて参りました。

現在は、どの施設の事業も年月と共に発展し、大変専門性の高い内容になっております。

私たち和歌山つくし会の事業の目標は、利用者の皆様の命を守り、そして一人ひとりに寄り添い、より幸せになって頂くことです。そのためには、職員全員が自覚をもち、職種や立場の違いを超えて皆で協力していくことを大切にしていきたいと思っております。

日々の業務の中で一人では難しいと感じることや実現不可能な事でもチームで協力し合ったり、やり遂げるといことを目標とし、その達成によって、より深い充実感を得ることが出来れば、今後仕事を続けていく上で皆様の心の大きな財産となることでしょう。新しい職員さんには、まず仕事を覚えていただくことが第一ですが、もしわからないことがあれば是非先輩達に質問してください。今後は利用者の方々との関係だけでなく、そのご家族や地域の方々などとの関わりが広がっていくことと思っております。そして何かの折に気持ちの行き違いや誤解、ストレスを感じる局面もあるかと思っております。そのようなときにはしっかり考えて行動して頂くことがもちろん大切ですが、ひとりで全てを抱え込まずに、必ず話せる方、先輩や同僚、上司の方に相談してください。そして「あなたは一人ではない」ということを思い出してください。仲間とともに日々研鑽を重ね、成長し、色々な経験を積んで、将来は自分が周りの人に寄り添ってあげられる、そして頼られる存在になって頂きたい。自身の経験を生かして新しいリーダー像を目指していただきたいと思っております。

皆様はこの記念すべき創業71年目の年に入職してくださいました。この素晴らしい出会いに心より感謝し、共に新しい歴史を作っていきたいと思っております。



## 「ご挨拶」

社会福祉法人 和歌山つくし会 副理事長

森 下 宜 明

この度、副理事長を拝命いたしました。

里親支援センター「なでしこ」センター長も兼務ということで、副理事長の職責を全うできるかは、非常に心もとないのですが、理事長はじめ常務理事、事務局長がおられますので、立ち上げたばかりの「なでしこ」の運営に注力することができています。

私と初代理事長谷本千鶴先生との出会いは、今から45年前に遡ります。

昭和55年6月1日、つくし医療・福祉センターの前身の岩出療育園第2病棟30床の増築に伴い、当時の有功ヶ丘学園等から重症の年齢超過児を受け入れるため、新たに職員を募集していたところに、どういうわけか、共通の知人を通じて、大学を卒業し県内の企業に就職していた私に声がかかり、その年のゴールデンウィーク明けには、勤めていた会社を早々に辞め、桃山療護園にボランティアとして通うことになっていました。

福祉活動の経験もなく、全く畑違いの環境で、何故これまで続いてこられたのかは、私にもわかりませんが、初代理事長と桃山療護園や岩出療育園で出会った方たちの暖かいご指導の賜物だと思います。

出会いがあり、別れがあり、苦労があり、喜びもあり、あっという間の年月でした。

これからも、力の続く限り、理事長を支え、つくし会の発展に寄与していきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



和歌山つくし会役員



## 「ご挨拶」

社会福祉法人 和歌山つくし会 常務理事

西上 邦雄

このたび、社会福祉法人つくし会の常務理事をお預かりすることとなりました西上邦雄です。これまで法人を支えてこられました職員の皆様をはじめ地域の皆様、また県・市の行政の皆様方のお力添えに心より感謝申し上げます。

私自身、もとより微力ではございますが、法人の理念であります「つくす」を心に刻み、職員の皆様とともに一人ひとりの笑顔が増えるよう誠実に力を尽くしてまいりたいと思っています。

昨今の社会福祉を取り巻く環境は日々変化しています、福祉事業に求められるニーズもますます多様化していますが、こうしたことにも対応しつつ、福祉サービスの質を向上させながら、持続可能で安定した運営を目指さなければならないと考えます。

そのためにも職員の皆様とともに手を携え、思いやりと信頼にあふれる組織づくりを目指し、これまでの歩みを大切にしながら、未来につながるあたたかな福祉の形を築いてまいりたいと考えております。今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 「ご挨拶」

和歌山つくし会 本部事務局長

中谷 政紀

この度、本部事務局長を拝命いたし、責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

私は、つくし医療・福祉センターの事務部長を4年間務めさせていただきました。その間、多くの皆様のご指導、ご協力をいただきながら業務を進めることができ、心から感謝いたしております。振り返れば、色々と調整をしなければならないことや、悩ましい案件も多くあり、行き届かない点もあったかもしれませんが、自分なりに最善を尽くせたのではないかと考えております。

また、仕事を通じて多くの方々と知り合うことができたことが私の財産であると感じています。

今後は、法人本部の業務となり、仕事の守備範囲が法人全体となり広がります。和歌山つくし会の発展のためにファインプレーを目指し頑張りたいと思っておりますが、まずはエラーをしないように周囲の方々のご意見をお聞きしながら進めてまいりたいと思っております。

変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 「ご挨拶」

和歌山つくし会 本部事務局 総務課長

前田典子

本年4月、本部事務局総務課長を拝命いたしました。

平成19年に広瀬保育所（現幼保園）「総務主任」として初めて異動し、今回で4回目となります。それまで保育の現場で子どもたちと遊び、走り回っていらしたので、エクセルも知らず、“総務・事務・会計とは何ぞや？”と分からないことだらけでした。そんな私に園長先生をはじめ、たくさんの方々がお力をお貸しくださり、どうかこうにか今までやってこられたように思います。

「移動」はたくさんのお出逢いがあり楽しいのですが、「異動」となると、何度経験しても容易いものではありません。

今はまだ「猫の手」（借りてもそれほど役に立たない）ですが、かゆいところに手が届く「まごの手」を目指して精進してまいりたいと思います。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後に、今回の異動でもたくさんのお出逢いとお別れをさせていただきますように・・・。



前田典子さんは、令和6年秋の叙勲で瑞宝単光章を受章され、令和7年3月27日に和歌山つくし会で祝賀会が開催されました（つくしジャーナル第10号「つくしっ子インタビュー」参照）

## 園長就任のご挨拶



### 「新任挨拶」

広瀬幼保園 園長

上垣内 康 弘

このたび、令和7年4月1日付で広瀬幼保園長に就任いたしました上垣内と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私はこの3月まで和歌山市役所で勤務しており、園長職とはまったく異なる職に就いていましたが、こちらに来て以来、子どもたちの元気な声とキラキラとした笑顔に触れ、市職員時代では経験することができなかった日々を過ごしております。

長きにわたり市職員として地域社会に貢献してまいりましたが、これからは未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるという、たいへん光栄な役割を担わせていただくことに対し感謝しております。

さて、ご存知のとおり、我が国の夫婦共働き世帯の割合は年々増加しており、2020年の国勢調査によると69.4%と、1980年の49.3%と比べると20ポイントの増加となっており、子育て世代にとっては保育・教育への関心は、ますます高くなっていると考えられます。

広瀬幼保園が引き続き地域の子育て拠点として多くの方々の支えになるよう、園児たちのために日々がんばってくださっている先生方をサポートし、子どもたちが笑顔で過ごせる、保護者の皆様が安心して預けられる園づくりに尽力してまいりたいと思いますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 「ご挨拶」

つくし幼保園 園長

佐伯 正 季

令和7年4月からつくし幼保園の園長を拝命いたしました。

広瀬幼保園での4年間で、子どもたちが「未来の宝」であることはもちろん、職員のみなさんは「社会の宝」であることを実感いたしました。

子どもたちが安全に毎日わくわくしながら過ごすことができ、保護者の方々が安心して預けられ、職員にとってもやりがいのある働きやすい場であり続けられるよう取り組んでいきたいと考えております。

子どもたち・保護者の方々・地域の方々・職員とともに、たくさんの笑顔と涙（当然、うれし涙、感動の涙です！）に囲まれながら、素敵な未来を作っていくことができたらこの上ない喜びです。

子どもたちが見せてくれる笑顔は、心に太陽を照らしてくれるような力があります。そして、子どもたちの成長には、涙を流してしまいそうなほど感動する瞬間もあります。明るく・温かく・安心できる環境の中で、子どもたちの可能性の芽を多く育成できるように支えるとともに、園がこの地域に無くてはならない存在として自分自身も一緒に成長できることを目指していければと思っています。

岡名誉園長を始め皆様のご指導、ご協力をいただきながら「つくす」ことに少しでも貢献できればと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

## 新規入職・採用職員、昇任職員 抱負を語る！

### つくし医療・福祉センター 新規入職職員



#### 「ご挨拶」

つくし医療・福祉センター 事務部長

**楠石 由則**

38年間勤務した前の職場を定年退職し、この度、事務部長として和歌山つくし会の一員に加えて頂きました。振り返ってみますとこれまでに多くの方と出会い、皆さんからご指導をいただき支えられ今日に至っているのを実感しています。こうしたことから、多くの仲間と支えあう、このつくし会におきましても一期一会、人との出会いを大切にして頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



#### 「自己紹介」

つくし医療・福祉センター 看護師

**岩槻 蒼依**

看護師として全く新しい分野への挑戦で、不安もありますが分からないことや未経験のことにも臆することなく自ら積極的に学び吸収することで一日でも早く戦力になれるよう努力していきたいです。

一人ひとりの利用者さんに寄り添い、安心できる関わりができるよう自分自身も日々成長していきたいです。分からないことは素直に学び、先輩方の指導を受けながらチームの一員として信頼される看護師を目指して頑張っていきます。



## 「新入職の抱負」

つくし医療・福祉センター 保育士

**松 下 和花名**

第2療育棟保育士の松下と申します。静岡出身で、以前は三重県の児童精神病棟で保育士として働いていました。入職した当初は目の前のことをこなすこと、一日の流れを覚えることで精一杯でしたが、先輩方に親切に教えて頂き前向きに取り組むことができました。利用者の方々の趣味趣向や特性、季節の行事など分からないことも多いので、先輩方から学び、少しずつ慣れていけたらと思っています。よろしくお願いします。



## 「僕について」

つくし医療・福祉センター 保育士

**坂 田 陵 哉**

保育士となり早2カ月が経ちました。入職時は重症心身障害児者の方とのコミュニケーションの取り方、医療ケア、支援を必要とする方への関わり方がわからず戸惑いもありました。ケアの方法、専門的なことがわからず、先輩方や利用者の方々に教わりながら日々学ばせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。これから、利用者の方に安心安全に生活を送って頂くために、関わり方やケアなどの専門的知識を学び深め、向上できるように邁進していきます。



## 「共に笑顔で」

つくし医療・福祉センター 保育士

**高 岡 洋 子**

2025年4月、3療育棟に配属されました。

利用者さんと、正門前の桜の花を見ながら「綺麗だね」「暖かいね」等と、会話できる時間は、とてもゆったり、ほっとする時間です。

利用者さんの中には身体機能が低下してきている方もいらっしゃいます。

これからも四季折々、少しずつ毎日の生活の中で、ほっとできる時間やスタッフと一緒に楽しめる活動を重ねていけるよう微力ながら力になればと思います。

## つくし医療・福祉センター 新規採用職員 (正規職員)



### 「抱負」

地域在宅支援センター 看護師

廣畑紫穂

病院勤務では急性期看護を経験し、在宅看護に興味をもち、つくしの里で訪問看護を始めました。訪問看護に携わるようになり1年以上たちますが、病院勤務では気付くことができなかった在宅での生活の困りごとやご家族の負担を知ることができました。正規職員となり、今後も在宅で生活する医療的ケア児やそのご家族に寄り添った看護を提供できるようチーム一丸となって頑張りたいと思います。



### 「ご挨拶」

つくし医療・福祉センター 介護福祉士

田中ひふみ

私は2療育棟に介護福祉士として3時間パート職で入社し、その後日勤パートにて2年勤め、この度正規職員として採用して頂きました。ここに来て初めて様々な障害をもった利用者さんとふれあい、その方に応じた関りを通して日々勉強しています。チームや係の研修などにも積極的に参加し、自己研鑽に努めています。至らないところも多々ありますが、これからもご指導よろしくお願ひ致します。



### 「ごあいさつ」

地域在宅支援センター 介護福祉士

楠見知春

この度、訪問介護ステーションつくしの里で正規職員として勤務させて頂くことになりました。訪問介護は利用者さんだけでなく、ご家族とのかかわりも深く、皆様の様々な思い・不安に触れながら、少しでも安心して快適な生活が送れるような支援を行っていきたく思います。利用者・ご家族とコミュニケーションを図り、信頼関係を築きながら一人一人に合った支援が行えるように努めていきたく思いますので、これからもご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。



## 「今年の抱負」

つくし医療・福祉センター 介護福祉士

田村 沙織

令和4年つくし医療・福祉センターに非常勤職員として入社し、今年4月より常勤として勤務させて頂くことになりました。

利用者さんとの関わりが増え、夜間帯は日中と違いスタッフの数も減る為、より細かく利用者さんの様子を見ていく必要がありますので、他のスタッフと情報共有しながら利用者さんご家族の希望に添うように安全・安心を基に支援を行っていきたいです。

今後は委員会など活動の場も増えますので他職種連携やスタッフと協力の上、いっそう業務に励んでいきたいと思えます。



## 「ご挨拶」

つくし医療・福祉センター 看護師

宮井 佳代子

つくし医療福祉センターへ入社し9年が経過しました。

子育てと仕事を両立する日々において「つくしの里こども園」の先生方には、子どもの成長を温かく見守って頂き、毎日安心して預けることができました。

また、上司や先輩、同僚の皆様には勤務調整やサポートを頂き、心から感謝しています。

今後も利用者さんご家族の想いに寄り添い、一人ひとりの生活がよりよいものとなるよう支援に努めてまいります。

## つくし医療・福祉センター 新規採用職員 (契約職員)



## 「ご挨拶」

つくし医療・福祉センター 事務員

辻前 梢

このたび、4月より雇用形態が変わることとなりました。

入社してから早いもので10年が経ち、最近では「ちょっと聞いてみよう」と声をかけて頂くことも増え、少しずつ頼りにして頂ける場面も出てきたように感じています。

まだまだ力不足だと感じることも多いですが、できることを少しずつでも増やし、責任を持って、丁寧に向き合っていきたいと思えます。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



## 「2025年の抱負」

つくし医療・福祉センター 事務員

西上 明里

私は、契約職員として採用して頂いた西上明里と申します。辞令交付式で谷本理事長から辞令交付頂き、大変うれしく感激しました。思い返しますと、臨時職員として採用して頂いてから5年になります。今は、訪問看護・介護事業所で仕事をしていますが、訪問に出られる職員の皆さんが気持ち良く仕事ができるようにサポートできたらと思っています。

今後ともご指導、ご協力をお願いします。

## つくし医療・福祉センター 昇任職員



## 「療育部長を拝命して」

つくし医療・福祉センター 療育部長

飯田 康人

本年4月に療育部長を拝命致しました。15年前の入職当初、利用者さんの思いを上手く汲み取れず悩んでいた私にいつも気をかけて下さったのが同年代で経験の長い介護福祉士さんでした。職種が違って、互いに持っている専門性や経験力で助け合い、利用者さんの健康と生活を支える。つくしの理念である『つくす』。これは、共に働く職員同士も互いに心を寄せるという意味で大切だと考えています。療育部長として現場の声に耳を傾け、風通しの良い職場風土を築けるよう微力ながら取り組んでまいります。



## 「療育副部長を拝命して」

つくし医療・福祉センター 療育副部長（教育課長兼務）

並松 都紀子

この度、療育副部長を拝命いたしました。

私は、つくし医療・福祉センターに入職し12年になります。入職したころは、病院との違いや利用者さんの食事介助の難しさに戸惑うことばかりでしたが、教育にも関わらせて頂き、あっという間に時が過ぎ去った気がします。センターで働く上で大切なことは、日々業務だけをこなすのではなく、自己研鑽を積むことと常に自身を振り返ることだと思います。今後も利用者さんにとって最善の看護・支援ができるように精進していきたいと思っています。



## 「ごあいさつ」

療育副部長（育成課長兼務）

山下敬子

この度、療育副部長を拝命いたしました山下敬子と申します。今回このような役職を仰せつかりまして、大変身の引き締まる思いです。私は昭和59年1月につくし医療・福祉センターの前身である岩出療育園に入職しました。入職した頃の利用者の皆様と共に歳を重ね、今年で41年目を迎えます。残り限られた期間ではございますが、一日一日を大切にしながら最後まで努めてまいります。どうかよろしくお願い致します。



## 「療育課長を拝命して」

つくし医療・福祉センター 療育課長

松田守司

この度、第二療育棟で療育課長を拝命いたしました。  
私は看護師として、桃山療護園に入職し、つくし医療福祉センターでの勤務を通して今年で31年になります。  
この30年間で呼吸器を装着した超重症児や医療的ケアが必要な利用者さんの割合が増加しました。それに伴い自らもケアの質を高めると同時に、すべての利用者さんを笑顔にすることを目標にしてきました。今後も療育棟のスタッフ一丸となり楽しい雰囲気の仕事ができるよう、頑張っていきたいと思っております。



## 「育成主任を拝命して」

つくし医療・福祉センター 育成主任

高尾瑞穂

この度、第2療育棟の育成主任を拝命いたしました。  
私は介護員として合併前の岩出療育園に入職しました。当時の上司の勧めもあり介護福祉士試験を受け、無事介護福祉士となることができ、気付けば18年が過ぎました。  
利用者さんと接する時に難しさを感じることは多いですが、利用者さんの笑顔が見られた時に1番やりがいを感じるようになりました。  
主任らしい主任にはなれないかもしれませんが、自己研鑽を続けていこうと思っていますので、これからもご協力よろしくお願ひいたします。



## 「相談支援専門員として」

地域在宅支援センター 相談員

**富永 小代里**

私は療育部で保育士としての経験を経て、4月から相談支援専門員として新たな一歩を踏み出しました。障害に関する相談や福祉サービスの利用計画を通して、利用者さんに寄り添い、その人らしい選択肢を提供できるよう努めます。これまでの保育士としてのスキルを活かし利用者さん、子ども達が地域で安心して暮らせる支援を心掛けていきます。今後とも精進してまいりますのでご指導のほど宜しくお願い致します。

## つくし幼保園 新規入職職員



## 「ご挨拶」

つくし幼保園 保育教諭

**濱田 理美**

20年前、このつくし保育所に入園し、6年間育てていただいた場所。そして、たくさんの思い出の場所。この度、憧れの保育教諭として、母園のつくし幼保園に戻ってきて働くことになり、とても嬉しいです。今度は、こどもたちを保育する側として学び、経験を積ませて頂きたいと思います。

初めてのことや不安を感じることも、自分がこどもたちと関わることで上手くいかないこと、落ち込むこともあります。先輩の先生方の丁寧な指導、優しい声かけで日々成長させてもらっていると感じています。また、子どもたちの楽しく遊んでいる姿や笑顔を見て、毎日楽しみながら保育指導を学ばせてもらっています。

実習に来させて頂いた時には、子どもたちの一人一人の性格、その子にあった関わり方をされている先生方の姿に魅力を感じました。私自身も一人ひとりに寄り添うことが出来るよう、そしてこどもたちが安心できる先生になれるように一生懸命頑張りたいと思います。

## 和歌山乳児院 新規入職職員



### 「和歌山乳児院へ就職しての抱負」

和歌山乳児院 保育士

**岡本 祐希奈**

夢だった乳児院保育士になることができ、とても嬉しいです。こどもたち一人ひとりに寄り添い、個性や特性をしっかりと理解し、尊重できるよう努めたいと思います。そして、先輩方のようにこどもたちから信頼され、愛着関係をしっかりと築く事のできる保育者になりたいです。初めての経験で分からないことばかりですが、和歌山乳児院でのこどもたちとの日々を楽しみながら懸命に頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



### 「ご挨拶」

和歌山乳児院 看護師

**川口 希子**

この4月1日から和歌山乳児院で働かせて頂くことになりました。こどもたちに安心してもらえるような関係を築けるように頑張っていきたいと思います。そのためにも日々の関わりを大切に、言葉だけでなく表情やしぐさなどに注意しながらコミュニケーションをとっていきたいと思います。このようにこどもたちとしっかりと関わるのは初めてとなりますので、こどもたちと一緒に自分自身も共に成長していけるよう頑張りたいと思います。

## 和歌山乳児院 新規採用職員 (正規職員)



### 「ご挨拶」

和歌山乳児院 保育士

**大串 春奈**

私は和歌山乳児院に就職させていただいて8年目になります。就職させていただいてから今まで、たくさんの可愛いこどもたちに出会うことが出来ました。ですが、乳児院で会うこどもたちには、背負いきれないほどの背景があり、8年経った今でも関わり方に戸惑い、正解は何だろうと考えます。日々、こどもたちにとっての最善を考え、大切な小さな命を繋いでゆく仕事に私は誇りを持っています。こどもたちとの出会いがあればもちろん別れもあり、こどもたちを大切に想えば想うほど別れの時は寂しいと感じます。

何年か経って成長した姿を見せに来てくれる子もいますし、また会うことが難しい子のことは「何歳になったかな？」と大きくなった姿を想像し、微笑ましい気持ちになります。

これからも初心を忘れることなく、こどもたちと日々向き合い、気持ちに気づき、寄り添うことの出来る「こどもにとって安心できる居場所」のような保育士でありたいです。まだまだ至らないところばかりですが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 「ご挨拶」

和歌山乳児院 心理士

古谷 有佳理

この度、正規職員として働かせて頂くことになりました。入社してから8年目になりますが、振り返れば、いつも子どもたちからたくさんのパワーを私自身がもらっていたように感じます。今後も、日々支えてくださる先輩方やまわりの方々への感謝の気持ちを大切にしながら、子どもたちの気持ちに丁寧に寄り添い、安心して過ごせるように努めていきたいと思っております。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

## つくしの里こども園 新規採用職員 (正規職員)



## 「これからの意気込み」

つくしの里こども園 保育士

口井 千賀

保育士になって21年になります。まだまだ子どもたちや周りの先生方から学ぶことが多く、こんなにもやりがいのある仕事は他にないと思っています。子どもたちには、一人ひとりに向き合い「落ち着くなあ」「安心できるなあ」と思ってもらえるような関わりを目指し、つくしの里こども園ではムードメーカー的な存在になれるよう明るく前向きで周囲を楽しませる保育士を目指していきたいと思っています。

本年よりこども園の正規職員となり大きな責任を感じております。これから正規職員として自覚を持ち、より一層職務に精励していきたいと思っています。

## つくしの里こども園 新規採用職員 (契約職員)



## 「ご挨拶」

つくしの里こども園 保育士

本田 めぐみ

この度は辞令交付式に参列させて頂きまして心より感謝申し上げます。

つくしの里こども園の保育士として勤め、3年目の本年、契約社員として採用して頂き、念願の担任をさせて頂くことになりました。

今日までつくし会の諸先輩方にご教示頂いた沢山の学びや、これまでに経験し学んだ事を糧に採用して頂いたご恩返しとして日々努力し、また笑顔や心配りを忘れることなく「つくし」務めさせて頂く所存です。

最後になりましたが、このような貴重な機会を頂き本当にありがとうございました。

## つくしの里こども園 昇任職員



### 「ご挨拶」

つくしの里こども園 主任保育士

橋本 有加

和歌山つくし会に入職して、8月で12年になります。事業所内託児所からつくしの里こども園になり、在職中に結婚出産と人生の一大イベントを経験しました。子育てをする中で、保護者の方の気持ちに寄り添ったり、一緒に成長を喜び合ったりして保育士という仕事によりやりがいと楽しさを感じています。

保育主任を拝命して、まだまだ未熟ですがこどもたちと職員みんなの笑顔を大切に、「つくす」気持ちで、私自身もっと成長していけるように頑張ります。

## 里親支援センター「なでしこ」 新規入職職員



### 「改めて思うこと」

里親支援センター「なでしこ」 里親等支援員

浜田 博子

里親支援センター「なでしこ」でお世話になり始めてはや一か月。早く業務を覚えよう、慣れようと日々を過ごしているうちに、あっという間に時間が経っていました。

前職でも里親支援に携わる期間はありましたが、施設職員としての里親支援と「なでしこ」での里親支援の役割の大きな違いを目の当たりにし、この一か月はただただ与えられる仕事をこなすことで精一杯だったように思います。「こどもたちの最善の利益」を守るために自分ができること、しなければならないことを見極め、里親子の悩みや不安に寄り添い、一緒に泣き笑いしながら養育を応援していきたいと思っています。



### 「ご挨拶」

里親支援センター「なでしこ」 里親等支援員

西 晶子

4月から里親支援センター「なでしこ」で里親等支援員としてお世話になっております。以前は障害児の入所施設に勤務していました。里親等支援員としては、まだまだ経験不足ですが、センターの諸先輩方にご指導いただきながら、前職の経験を少しでも活かしつつ1日も早く1人前になれるよう懸命に努めております。

どうぞよろしくお願いたします。

## 里親支援センター「なでしこ」 新規採用職員（正規職員）



### 「つくす」という理念

里親支援センター「なでしこ」 里親等支援員

竹之下 もえこ

2014年6月より和歌山乳児院にて約10年勤務させていただき、2024年4月より里親支援センター「なでしこ」にて勤務させていただいております。今まで乳児院では入所している子どもたちと直接的なかかわりをもってきましたが、里親支援センター「なでしこ」では間接的な支援を求められ、悪戦苦闘する日々が続いております。先輩方に何度も相談し、悩み考えながら1年間すごしてきました。ですが、どちらのかかわりや支援にも共通するのが、つくし会の理念「つくす」ということだと考えます。対象者や支援方法に違いはありますが、相手の方に対して「つくす」という気持ちを持ってこれからも笑顔を忘れず日々精進していきたいです。



里親支援センター「なでしこ」

## 研 修 報 告



### 「近代ボバース概念 CBC小児領域8週間講習会に参加して」

つくし医療・福祉センター 言語聴覚士

中 森 麻 美

2024年10月7日～11月29日の8週間、大阪にあるボバース記念病院で近代ボバース概念CBC小児領域8週間講習会に参加致しました。ボバース・コンセプトは脳性麻痺を中心とした中枢神経系疾患がある大人・子どもへの、個々の状態に合わせたアプローチのための概念で、重症心身障害児者の施設で働く自分にとっては重要な考え方・手技が学べるのではと考え、基礎からしっかりと長期的かつ集中的な学習ができること・実際の症例を実習という形で、先生に見てもらいつつ関わっていくという点が他の講義・セミナー等ではなかなか得られない、貴重な機会だと感じたため、この講習会を受講しました。

1週目はボバース概念とは何かという一番根幹となる考え方を、歴史を交えつつ胎児期も含めた正常発達を中心に学びました。受講前は脳性麻痺に特化した内容のみを学ぶと思っていましたが、出生直後～1歳6カ月までのあらゆる視点からの正常発達を自分達で数日をかけてまとめながら学ぶ事ができました。どれくらいの月齢でどれくらいの発達をするのかというのは元々ある程度理解していたつもりでしたが、小児領域で働いている理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が各々専門的な知識を持ち寄る事でより詳細な発達段階を学べたと同時に、一つ一つ「なぜそうなるのか」という理由を講師に問われ、受講生同士で討議していく内に様々な側面が複雑に影響しあって乳幼児は驚異的な速度で発達していくという事を改めて学ぶ事ができました。

Postural Control についての座学では姿勢制御の重要性と、体幹の安定性を引き出すために必要な神経回路など、どのような事を考えて治療を展開していけばいいのかを学ぶ事ができました。また、合間に初めての実技もあり、受講生同士で実際に自分の手でハンドリングを学びました。定型発達である私たち受講生同士でもそれぞれ身体の特徴や動かし方の癖が全く違っており、例として、腹筋群を賦活する実技にて上前腸骨棘近くの内腹斜筋を上方向に動かすと反応が得られる人もいれば、肋骨下縁周辺の腹直筋に圧迫刺激を入れると反応が得られる人など、人によって様々でした。実際の治療場面でもどこにどう触れてどの方向に動かしていくのか、どう姿勢設定をしていくのかを個々に合わせて考えていく難しさと大切さを学ぶ事ができました。

2週目では脳性麻痺の各タイプの基本的な傾向や治療原則を中心に学びました。失調型は小脳の病変であったり、アテトーゼ型は主に基底核に病変がある等、タイプによって脳のどこに難しさ





があるのか、どういうメカニズムで筋緊張の変化の仕方が異なってくるのかという部分も詳細に解説してもらえたおかげで、それぞれのタイプに合わせた治療展開をおこなうにはどういった事をしたら良いのかを知ることができました。また成長や治療の進行度合いによってタイプが変わるので見極める事が重要というのも印象に残った内容でした。この知識を活かして、今後の業務で脳性麻痺児を担当した際にはどのタイプかを見極めた上で治療内容を検討していきたいと思っています。この週は実技が多く、基本的なハンドリングの方法と、それに基づいた痙直型脳性麻痺児に対しての座位や立位での運動の誘導の仕方を学びました。痙直型脳性麻痺児に対しては一側支持や回旋運動を考えてハンドリングをおこな

なっていくのが基本ではありますが、先述したように反応を得るために触れる部位・方向性が人によって違うという点に加え、安定した座位・立位から更に動きを加えていくので引き出したい動きに合わせて触れる部位や運動方向を変えていく必要性がありました。そのため、どの部分の筋肉を保持し、どの方向へ動かせばいいのか考える難しさを感じたと同時に、方向がわずかに違って運動の引き出しやすさがかなり変化することが分かりました。講習会では実技は受講生同士でおこなうため、お互いに「こっちの方向は動きにくい・動きやすい」と口頭で確認しながら運動の方向性を確認できたため比較的分かりやすかったのですが、実際の業務ではそういった事を伝えられる児は少ないため、セラピストがより注意深く相手の反応を色々な視点から観察しながら触れる部位と運動の方向性を考える必要性があると思いました。

3週目は視知覚についてと、アテトーゼ型についての講義が中心で、視知覚の発達と姿勢制御における重要性を学ぶことができました。特に、ボバース概念の中でも重要要素の一つである「身体図式」の構築にあたって、視覚情報が視覚野から背側経路・腹側経路を通して最終的には下頭頂小葉にて体性感覚や身体的位置情報など様々な情報と共に統合されることが重要ということで、脳の機能局在も踏まえて解説してくれました。視知覚の重要性は理解できましたが、実際の業務では弱視や盲の脳性麻痺児も来院する事が多いため、このようなケースにおいてはどの治療展開を考えていけばいいかという課題があると感じました。この点に関しては今後も視知覚についての学びを深める必要があると考えています。

4週目では、摂食嚥下についての講義・実技が中心でした。8週間の講習会は全ての週で色々新しい発見があったり、学びが多かったと感じていますが、4週目の内容が一番印象に残った週でした。摂食嚥下の講義の際に講師（ST）から「身体の成長・変形や、その時の摂食嚥下能力のレベルに合わせて何歳まで経口摂取を続けるのか、また環境設定をおこなっても、むせこむ

頻度や肺炎の頻度が増えた時などには経口摂取を止めて経管栄養に切り替えていくのかも考えていく・見極めていくのが脳性麻痺の方々には大切」という話があったのが印象的でした。今まで参加した様々なセミナー、特にSTが講師ではない摂食嚥下機能関係のセミナーでは「食べられるようになるにはどうしたらいいか」「食べるための訓練セミナー」等、どちらかという、食べるためにどうしたらいいかというのがメインで、食べる事が善・食べない事が悪のような風潮（あくまで主観的に受けた印象ですが）で言われる事が多かったので、臨床で経口摂取が難しい・経管栄養に切り替えていく必要がでてきた際にそれを各関係者に伝えていく事に罪悪感や自身への情けなさを抱いてしまう事も多かったのですが、講師の話聞いて「（経口摂取が）難しい時には堂々と言っていいんだな」と自分の中で認識が変化しました。まずは適切に利用者さんの摂食嚥下機能を評価するというのが大前提ではありますが、その上で経口摂取もしくは経管栄養への切り替えを判断していきたい・関係者に伝えていきたいと改めて思いました。

5週目は低緊張型・失調型についての講義が多く、昔はハンドリングといえば痙直型などの筋緊張が高い児が多かったため筋緊張を緩める手技がメインだったようですが、近年では、低緊張型の脳性麻痺児が増加してきたという事で筋緊張を高める（促す）というための「促通」のハンドリングがメインになってきたという内容がとても印象的で、この変遷はボバース概念における重要な考え方の一つである「常に最新の知識をアップデートし続けていく」という事に通じてるのだなと感じました。また低緊張児についての知識は治療実習においても、自分の担当利用者さんの一人が重症児で低緊張型であったため、実際に講習会で得た知識を活かして臨む事ができました。しかし、実際にハンドリングをおこなう事の難しさと、難しいが何度も繰り返していけば確実に利用者さんが変化していく実感の両方を経験することができました。

6週目はコミュニケーションや呼吸・発声などSTが専門としている領域の内容も多く、STとして必要な知識を得る事ができましたが、それ以外にも脳の一部である「不確帯」についての講義がとても印象的でした。「不確帯」は情動に関係する所であり、小児のリハビリにおいて「好き」という感覚や「やってみよう」という気持ちが大切だからそこをしっかりと考えながらリハビリを展開していきなさいというお言葉が講師からあり、不確帯が働くと他の脳部位と双方向的に作用して様々な情報を統合して適切な行動や自律神経系活動をおこなえるように脳全体が働き始めるとのことでした。利用者さんの「やってみよう」を引き出すには適切な課題の内容や姿勢の重要性、利用者さんの嗜好などに加え、セラピストのフォローの仕方など一人一人に合わせて工夫するべき点がたくさんあるなど改めて考え



るきっかけになりました。簡単な事ではありませんが、小児のリハビリにおいて一番大事な事だと思うので、今後も考えていきながらリハビリの内容をより良いものにしていけるよう努力を続けていきます。

7週目・8週目は問題解決・発表という数例の症例の動画を見て分析をおこない与えられた課題に対して答えを考えていくという内容がメインでした。座学ではリハビリ以外の様々な関連する内容（脳性麻痺児の臨床心理やチームアプローチなど）も多く学ぶ事ができました。特にチームアプローチの講義ではいかに多職種との連携やご家族への説明・連携が大事なのかを改めて学びました。海外との比較になりますが、「海外ではリハビリ予定時刻前の待機時間に、ご家族が積極的にセラピストから教えてもらったリハビリ内容をしっかりやっているが、日本は抱っこしてただ待っているだけの事が多い」という話があり、講師から「この違いの理由は講師自身もまだ明確に答えることができないが、受講生はどう考える？」という問いかけがありました。この問いに対して受講生同士での討論でも答えは出ず、絶対的な正解は無いと感じました。しかし、この問いかけを考える中で、まずはセラピストが日常で必要な事は何かを把握し、とりあえずリハビリに来れば良いという事ではなく、日常生活でもできる事をおこなっていただく必要があるという事を丁寧に説明していく義務があると感じたと同時に今後の課題だと思いました。治療実習では2週間ずつ様々なタイプの脳性麻痺児を担当し、実際に座学や実技で学んだ事を活用しつつ治療にあたりました。他の職種と一緒に取り組んでいく中で一回の治療の中でも変化していく脳性麻痺児を見て、「一回の介入でもこれだけ変化するんだ」と児の変化の速さに驚きました。また、他職種と同時に介入することで、より児のヘッドコントロールが促され、アイコンタクトがしやすくなったり、発声頻度や声量、発話明瞭度が向上する場面が見られ、一人で治療にあたるよりも単純な2倍ではない、想像していた以上の相乗効果が得られるのも感じる事ができました。自分は主に治療実習の中では、前方で利用者さんとの直接コミュニケーションをとる中で視線誘導や上肢の促通をおこなう・活動内容を考えるのが主な役割でしたが、複数回の中で実際に多職種と役割を交替して、普段の業務の中ではなかなかできない、児の姿勢制御に徹するという貴重な経験ができたのも印象に残りました。今回の研修で得た様々な事を今後のリハビリに活かして利用者さんに還元していければと思っています。

最後になりますが、このボバース・コンセプトを学んだ8週間、毎日が発見と感動の連続でした。決して楽しいだけではない、時には自分の苦手な分野に向き合ったり、課題に追われたりする事も多い日々ではありましたが、それでも体調を大きく崩すこともなく走り抜けたのは、出張として送り出してくれたつくし医療・福祉センターと、講習会中も自分の事を案じて励ましの連絡をくださったたり、声をかけてくださったリハビリテーション課の皆さんのおかげだと思っています。この場を借りて深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

# つくし医療・福祉センター 第13回スペシャルコンサート

コロナ禍のためにしばらく休止していた、つくし医療・福祉センターの「スペシャルコンサート」は令和6年10月に復活し、令和7年度は5月31日に第13回目が開催されました。

楽しいダンスや歌、紙芝居、実験ショー、ウクレレサークルコンサート、そしてピアノ独奏など大変見ごたえ、聞きごたえのある素晴らしい舞台が繰り広げられました。

日頃からみんなで培い、協力し合って成し遂げた演目、ほとぼる感性で歌いあげた曲、聴衆の胸を震わせたベートーベンやリストのピアノ曲などに聴き入っていると、あっという間に友情と調和の2時間が経過しました。

パンや手作りの物品販売の他、外来スペースで「きょうだい家族学習会」が行われました。

出演者の皆様、企画・準備して下さった皆様、また協力して下さった地域の皆様様に心より感謝申し上げます。



出演者所属：青空 つくし医療・福祉センター 麦の郷生活支援センター シャイン  
麦の郷 岩出障害児者支援センター  
販 売：ハル ふるさと村 ふるさとファーム メグリユック

## つくしっ子投稿



## グローバル経済の行方と社会福祉法人の未来

社会福祉法人 和歌山つくし会 本部事務局長

中谷政紀

新年度を迎え、桜や桃、野の花や新しい芽吹きにいつもと変わらぬ穏やかな春を感じていたのですが、世界情勢に目を向ければ、「トランプ関税」が世界経済を揺さぶっているという状況に、大統領の一挙手一投足がニュースとして報じられています。空洞化した自国の製造業を復活させるため合理的な範囲を超える関税をかける、そして個別に各国と交渉を進め有利な条件を引き出すというような手法のようですが、その間に世界の貿易量は減少し、株価は乱高下し、米国もインフレに陥るともいわれています。自由貿易の原則に従い発展を続けてきたところにもたらされた急激な保護主義化により、経済情勢の先行きは極めて不透明な状況です。

日本の経済は失われた30年と言われ、30年前と比べ国際競争力は大幅に下がっていましたが、最近ようやく少しずつ上向いてきて株価も上がりつつあり賃金アップなどが叫ばれてきておりました。そうした矢先に高い関税により広範囲の産業が影響を受けることとなり、その上、日本と米国との交渉では為替や安全保障なども俎上に上がっているようであります。この先一体どうなるのでしょうか。

わたしたちが、自分や法人の未来を考えるのにまず必要なことは今現在の置かれている状況を分析することですが、経済情勢についていえばそれが全く分からない不安定な状況が続いており、必要経費の支出額なども予想できなくなっています。さらには、設備投資や資金運用などは非常に難しい状況と言わざるを得ません。

とはいえ、未来に向けて何か手立てをするとすれば、長い目で見てこうなることは間違いないと思えることに備えることでしょうか。超高齢化社会、人口減少、AI革命などがそれにあたるのでしょうか。では、どれくらいの速度でその現象は進んでいくのでしょうか。

社会福祉法人にとって人の確保は今以上に厳しくなり、将来的には、外国人労働者の受け入れやAI技術の導入などが必要となると考えられますが、一方で、人口減少の中で収入が将来にわたって確保できるのかという不安要素もあります。

世界経済と社会福祉法人の運営、やはり密接に繋がっているわけであり、多かれ少なかれ影響を受けることとなりますが、不安定要素が大きくなってきていると感じます。

この文章が掲載される頃はどうなっているかわかりませんが、いろいろと考えさせられる最近の世界情勢ではあります。

未来はバラ色か、いばらの道か・・・。

## つくしっ子連載

## 連載 第8回

## 「イタリアで見つけた共生社会のヒント」

つくし医療・福祉センター リハビリテーション課 課長

川野 琢也



「令和元年度 地域コアリーダープログラム」は『日本青年派遣』と『外国青年招へい』の2事業がセットになっているプログラムでした。今までの本連載は、私がイタリアで経験したことや学び（日本青年派遣事業）について記してきました。今回は、外国青年招へい事業での経験や学びについて記したいと思います。

令和元年度のプログラムは、私が所属した障害者分野（イタリア派遣）と、それとは別に高齢者分野（オランダ派遣）、青少年分野（フィンランド派遣）の合計3分野で3カ国に計27名の日本青年が派遣されました。出国日と帰国日は3分野とも同日で、帰国時にその3カ国から3分野で活躍する外国青年を各国9名ずつ合計27名と一緒に来日しました。そして、全員の54名で招へいプログラム「NPOマネジメントフォーラム」が開催されました。イタリアから来日した青年は、私たちがイタリアでお世話になった方々だったのであまり緊張しませんでした（写真3）、オランダやフィンランドから来日している青年は初対面だったので緊張しました。特にオランダ青年は身体のサイズがかなり大きく、声も大きかったことが印象に残っています。後で知ったのですが、オランダ人は平均身長が世界一高い人種だそうです。

NPOマネジメントフォーラムでは障害者、高齢者、青少年の3分野の日本青年が3種類のトピックに分散して、外国参加青年と共に4日間にわたって視察やディスカッションをしました。私は「新しい連携・ネットワークで創造する共生社会」のトピックに参加しました。本トピックは、目の前にある様々な問題を解決するためには連携・ネットワークが必要となるが、既存の問題に立ち向かうだけでは新たな創造にはたどり着きにくい。そこで、これまでの問題解決のための連携・ネットワーク（以下 CoNet 1.0）だけでなく、未来志向型の新しい連携・ネットワーク（以下 CoNet 2.0）により生み出される新たな価値について検討し、新たな共生社会を創造することを目的としていました。ここまでの話しをまとめると、NPOマネジメントフォーラムでは他分野（障害・高齢者・青少年）×多国籍（日本・イタリア・オランダ・フィンランド）で構成された新しいグループで、既存の枠組みにとらわれない共生社会について4日にわたってディスカッションするというものです。この時の私の心境は、この4日間はどうなるのか全く見通しがつかず不安でいっぱいというのが皆様にも想像できるかと思います。さらに、CoNetという謎ワードも出てきており、その不安を払拭するためにスマホで検索したのを覚えています。しかし、CoNetは今回のフォーラムのみで使用するために産み出された造語だったため検索してもヒットせず、大きな不安を抱えた状態でのフォーラムへの参加となりました。

ディスカッションの内容は、Ⅰ. 自己紹介と各自が抱える連携・ネットワークでの課題（CoNet 1.0）の共有、Ⅱ. 3分野での連携した支援や共生社会のありかた、Ⅲ. 3分野の枠を

超えた無関心な人も巻き込んだ支援や共生社会について（このあたりからCoNet 2.0）、Ⅳ. 枠を超え無関心な人を巻き込むために必要なものについて、という流れで話し合いました。Ⅳの無関心に関心に変えるために必要なものについては①共感できる場の共有、②好きなことや得意なことから取っ掛かりを作りワクワクすること、③ワクワクが知ることへのきっかけやモチベーションとなり、④知ることが連携やネットワークを生み出し、⑤その先に新たな共生社会があるのではないか。というのが今回の我々が導き出したCoNet 2.0の到着点でした（写真1 写真2）。

今回のNPOマネジメントフォーラムを経験して最も印象に残ったのが、他分野×多国籍でお互い立場も全く違う人達が集まっての見通しの立たないところから始まったディスカッションでしたが、様々な意見を聞き相手の状況を理解したり、自分と重なる部分を共感し、対話を進めることで自然と到着点にたどり着いたことでした。まさにこの時間、この空間を一緒に過ごした私たちが小さな共生社会を経験しており、改めて顔の見える対話をする重要性を再認識した瞬間でもありました。見通しが見つからないことは、不安だけでなくワクワクな側面もあり、自分の価値観を変えるきっかけになることが新たな気付きになりました。



1. ディスカッションの様子



2. ディスカッションの様子



3. イタリア青年たちと日本のラーメン屋で

## つくしっ子ニュース！！

## 和歌山乳児院 病後児保育室「きらら」病児保育室へ

## 病児保育室「きらら」スタッフ一同

病後児保育として事業を始めてから10年が過ぎました。この度2024年11月より病児保育室に変更となり、病児保育室「きらら」がスタートしました。

病気やけがで登園・登校の出来ないお子様を看護師と保育士が、お子様の体調に合わせてゆったりと過ごせるようにお預かりしています。

病児保育室になるに伴い、感染や病状により配慮できるように、定員を3名から2名に変更しました。その他にも利用料金の見直し、受け入れ基準の拡大を行い、より利用してもらいやすくなるよう改編されました。

これからも地域の子育て支援として、お子様・保護者の皆さまに寄り添い「困った時にはきららを頼ろう！」と思っただけのよう安心・安全を心がけて保育・看護に努めてまいります。



## つくしの里こども園 おいもの苗植えに行きました！

5月14日、「和歌山乳児院」と「つくしの里こども園」のおともだちがさつま芋の苗植えに行きました。近隣の方のご好意により、「紅はるか」と「鳴門金時」の苗をこどもたち一人ひとりが「早く大きくな～れ！」と言いながら植えました。

さあ、秋の収穫のとき、どんなに美味しくて大きなおいもができるかな??



## つくし医療・福祉センター 読売TVの「BEAT時代の鼓動」に出演しました

つくし医療・福祉センターが読売TVの番組「BEAT時代の鼓動」の取材を受け、4月20日に放映されました！



## 日本重症心身障害者支援協議会 永年勤続表彰を受賞！

令和7年5月22日、長崎県で日本重症心身障害者支援協議会定時総会において、つくし医療・福祉センターの職員が永年勤続表彰を受賞しました。

医療事務員生駒美幸さん、林恵子さん、薬剤師木村舞里さん、看護師土井妙さん、作業療法士廣原悠生さん、介護福祉士西山奈那さんの6名です。



写真左 右から2人目 代表の西山 奈那さん 写真右 林 恵子さん

# つくしっ子のひとりごと

## メディアによって構築された「善」と「悪」

社会福祉法人 和歌山つくし会 理事長

谷本 美佐子

私は和歌山つくし会の理事長になる10年ほど前までイタリアに在住していました。

ベルルスコーニ首相が第2次政権を奪還後、外国人に対する風当たりが強くなり、ビザを更新出来なくなって、帰国せざるを得なかったのですが、その時の様子は現在のアメリカのトランプ政権によく似ています。

日本での生活を再開した時に日本の様子が1980～1990年代と大きく変わっていたので随分驚いたように思います。何に一番驚いたかといいますと、TVなどのメディアのあり方です。以前は時事問題にはその道の専門家が資料やデータを示して説明し、一般の視聴者に向かってわかりやすいように解説したり、意見を述べるのが通常だったように思います。

しかし、どのチャンネル番組を見てもタレントさんなどが集まって、数少ない情報だけをもとに「これは良い人」「これは悪い人」と小さな子どもたちがグループ分けするような形で意見を述べ合っているのです。専門家も入りますが、一部の人を除いては発言の方向はいつも決まっているようです。その話題の大部分は有名人の私的なことや、どうでもよいようなことです。本当に大切な問題から国民の目をそらさせるために大騒ぎをしているように見えます。

そして、何かあった時は次の日の朝刊に一斉に同じ記事が並びます。

最近では「プーチン大統領は悪だ」、「トランプ大統領は狂人だ」や「小泉農水大臣がお米の値段を下げてくれた」などのイメージ作りです。

国際問題は複雑な歴史が背景にあるので、良いか悪いかの一言で語ることは困難ですし、お米の問題についても、そもそも不足になった原因を精査し、過去の減反政策などから見直さないと、将来日本国民に及ぼす影響は甚大なものとなってしまいます。食糧不足やエネルギー、物価の高騰は私たち社会福祉法人にとっても深刻な問題です。

記事の一部だけ切り取って報道すればこうなるのはやむを得ないことだと思いますが、ロシアを例にとってみると、ヨーロッパではごく普通の認識ですが、プーチン大統領がクリミアを占拠した2014年、それ以前にウクライナでは親・ロシア政権を打倒するためのマイダン革命が起り、当時、まだ国軍でなかったアゾフ連隊がクリミア在住のロシア人たちを殺戮したのです。この大虐殺については国連においての史実でありましたが、ウクライナの国軍でもない私設の傭兵部隊がウクライナ国内の民間ロシア人を攻撃する、これだけ見てもウクライナという国が

当時いかに混迷していたかがわかります。

次には NETFLIX の出番です。ウクライナで、ある連続TVドラマが始まります。

俳優ゼレンスキー扮する平凡な学校の先生がある日突然拉致され、無理やり大統領に選出されてしまいます。戸惑いながらも奮戦する「大統領先生」の一生懸命な様子を汚職政権に疲れ切っていた国民は心をわし掴みにされてしまいます。そして2019年、実際に大統領選に出馬したゼレンスキー氏がポロシェンコ元大統領を制し、本当に大統領に就任することになるのです。当時の支持率は90%以上であったといいます。

なんと時間をかけて周到に仕組まれた戦争劇でしょう。

まるで意図的にもうひとつの世界が作り上げられたかのようです。（後にオバマ元大統領がCNNのインタビューに答え、「間接的に介入した」ことを認めています。）

西側各国の国会に招聘され、「VIVA UKRAINE！」と叫ぶTシャツ姿の正義の味方に私たちも感激し、拍手を送りました。そして「ウクライナ、頑張れ！」とみんなで寄付を集めました。それでどうなったのでしょうか？多くのウクライナ兵士、一般市民が亡くなり、負傷し、国庫は破綻し、悲劇でしかありません。本当に気の毒です。ロシア兵も数多く死亡しました。ロシアは西側の経済制裁に耐え、2025年6月現在、まだ戦争は続いています。

ロシアの資源はインドや中国が安く買い入れ、逆にこれまでの度重なる戦争でアメリカの国力は疲弊し、恐ろしい経済格差により国民は分断され、内需拡大を目指し、トランプ大統領が関税政策を打ち出しました。今後、私たちもその影響を被ることになるのです。

私はこの戦争について「本当に悪いのは陰で糸を引いているアメリカ（ディープステート）である」とか、「いやいや、やはりロシアの武力による現状変更は許せない」など言いたいわけではありません。国境が幾度も塗り替えられたヨーロッパの歴史は本当に複雑ですし、歴史学者の間でそれぞれ認識の相違もあることでしょう。

9世紀頃、ウクライナはキエフ公国であり、そののちポーランド領やリトアニア領でもありましたし、ポーランドに至っては1700年代にロシア、フランス、プロイセンにより3度分割されたのち、世界地図上から姿を消し、国の主権が回復するまでに100年以上を要しました。

ロシア・ウクライナ戦争に関してはプーチン側が一方的に軍事侵攻したという風に言われていますが、本当にそうでしょうか？先日、ロシアの外務大臣セルゲイ・ラヴロフ氏の開戦前の

レポートを翻訳する機会がありましたので、よくよく読んでみましたら、ものすごく逡巡していた感じが感じられました。国連中継などで見かけるあの「狡猾な外交官」というイメージとはほど遠く、率直で、正直さに溢れた人柄のように感じました。NATOとの軋轢により、プーチン大統領を説得することは叶わなかったのでしょうか。

私たちは誰でも何かあった時に、思ったこと、感じたこと、何でも意見を言うことができます。なんといっても日本には言論の自由があるのですから。

ただ、前述の「善」か「悪」の選択という単純な仕分けではなく、関連のあるその背景について機会があれば今一度事実を確認したり、本当にメディアが言っている通りなのかどうか、自身で考えてみるのも良いのではないのかな、と思います。



## 役員退任のお報せ

令和7年6月19日、監事 増尾 穰先生、評議員 船津 由紀子先生、田林 芳子先生の3名が退任されました。増尾先生は8年、船津先生は21年、田林先生は8年と大変長い間和歌山つくし会の為にご尽力頂きました。

先生方にはこれまで本当にお世話になりました。今後も引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 編集後記

和歌山つくし会ではより風通しの良い環境をつくり、働くことに生きがいを感じて頂ける職場作りを目指しております。

令和7年度は多数の入職者を迎え、活気のある新年度が開始しました。

新メンバーの加入は全員の士気を高めていく絶好のチャンスです。

まず相互理解を深め、交流の機会を持ち、しっかりと関係性を築いていきましょう。

そして、現在以上に厳しい少子高齢化、人口減少社会に向かって私たちはどのように地域におけるセーフティーネットの役割を果たし、事業を継続していくのか、限られた社会資源の中でそれぞれの事業所の専門性を活かし、地域の生活課題に対応していかなければならないと思います。

つくしジャーナル編集長 谷本